

## &lt;現況の検証&gt;

- 7月12日にイエローステージ（警戒）の対応方針に基づく要請を行ったが、以下のとおり感染拡大傾向が続いている。
  - （1）倍加時間が5日で2倍（約400人→約800人）となり、第一波より倍加時間が加速。
  - （2）新規陽性者の年代・居住地分布は、「10～30代の若い世代・大阪市居住」中心から、「40代以上、市外居住」の割合が徐々に増加。
  - （3）新規陽性者に占める感染経路不明者の割合が6割前後を推移。
  - （4）夜の街の関係者及び滞在者が新規陽性者の3割程度を占め、接待を伴わない飲食店等の関係者及び滞在者に感染が拡大。
- 感染拡大傾向が続いた場合には、今後、病床のひっ迫リスクが想定され、医療提供体制に影響。



## &lt;今後の取組み&gt;

- 感染拡大を防止し、医療崩壊を防ぐため、イエローステージ（警戒）の段階を上げ、府民の行動変容等を促す必要があるのではないか。※感染拡大抑止に効果を及ぼすまでに2週間程度要することに注意
- 医療体制等確保のために以下の取組みをすすめる。
  - ・軽症中等症に対応した必要病床の確保
  - ・軽症者に対応したホテルの整備・拡充の検討
- 大阪モデルによるモニタリングの参考指標として、「患者受入軽症中等症病床使用率」及び「患者受入宿泊療養施設部屋数使用率」を追加し、日々モニタリング・見える化を実施する。